

YAMAHA

POWER AMPLIFIER

HC2700 HC1500

取扱説明書

このたびは、ヤマハパワーアンプHC2700、HC1500シリーズをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。このアンプシリーズは、ヤマハPA機器の豊富な経験と実績をベースに、ヤマハの誇る精密な回路設計技術を駆使して開発され、ハイパワー・ハイクオリティな音響特性を達成するとともに、高信頼性、高安定性をも兼ね備えています。パワーアンプの性能をフルに発揮させると共に、未永くご愛用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

HC2700、HC1500シリーズの主な特長

- ・ パワーオン/オフ時の保護回路、ヒートシンクの過熱、異常な低インピーダンス時のパワーリミットなど、様々なプロテクションシステムの状態を示すインジケータ類、および、INPUTインジケータ、CLIP/LIMITインジケータ付きのPEAKレベルメーターを装備しています。
- ・ 入力端子には、それぞれのチャンネルにXLR-3-31タイプとXLR-3-32タイプ、2つのコネクタを備えていますので、入力信号をXLRケーブルで他のパワーアンプにリンクさせることもできます。
- ・ 出力系統にはヘビーデューティのバインディング・ポストを備えており、またグラウンド・リフト・スイッチでハムノイズのループに対処しております。
- ・ 新しく開発した回路技術により、消費電力が大幅に低減されました。(従来型、当社比 50%以下)

目次

各部の名称と機能	2
フロントパネル	2
リアパネル	3
ラックマウント	4
スピーカー配線	5
スピーカー出力端子	5
仕様	6
一般仕様 HC2700, HC1500	6
MONITOR/REMOTE接続ピン出力 (HC2700)	7
寸法図	8
ブロック図	8
特性図	9
故障かな?と思ったら	10




！安全上のご注意

安全にお使いいただくため

安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。またお読みになったあと、いつでも見られるところに必ず保存してください。

絵表示 この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

-  : 注意(危険・警告を含む)を促す事項
-  : 決しておこなってはいけない禁止事項
-  : 必ずおこなっていただく強制事項



警告

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

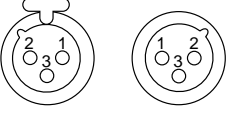
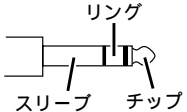
設置されるとき	ご使用になるとき
<p></p> <p>この機器はAC100V専用です。それ以外の電源(AC200V、船舶の直流電源など)では使用しないでください。火災・感電の原因となります。この機器に水が入ったり、機器がぬれたりしないようご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪時や海岸・水辺での使用は特にご注意ください。</p> <p>この機器の通風孔をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため、この機器のケースの上・底・後部には通風孔があけてあります。通風孔がふさがると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <p>とくに、次のような使い方は避けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機器をおお向けや横倒し、逆さまにする。 ・ 本箱や押し入れなど、専用ラック以外の風通しの悪い狭いところに押し込める。 ・ テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する。 <p>電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷が付くと、火災・感電の原因となります。とくに、敷物などで覆われたコードに気付かずに重い物を載せたり、コードが本機の下敷きになることは、起こりがちなことですので、十分にご注意ください。</p> <p>この機器の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災・感電の原因となります。花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品なども同様です。</p>	<p> プラグをコンセントから抜く</p> <p>雷が鳴りだしたら、早めに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p> <p> 接触禁止</p> <p>落雷のおそれがあるとき、電源プラグが接続されたままならば、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p> <p> 分解禁止</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理が必要と思われるときは、お買上げ販売店にご依頼ください。</p> <p></p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>
<p></p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁から10cm以上離してください。また、他の機器との間隔も少しとってください。オーディオラックなどに入れるときは、機器の天面には10cm、側面には1cmの間隔をそれぞれとり、ラックの背面は開放するか、もしくは相当の通風孔を開けてください。放熱が不十分だと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <p>2台以上のアンプをEIA標準のラックにマウントするときは4ページの「ラックマウント」を参考にしてください。</p>	<h3>使用中に異常が発生したとき</h3> <p></p> <p>煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がみとめられたときは、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、異常がおさまるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p> <p> プラグをコンセントから抜く</p> <p>内部に水などの異物が入った場合は、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p> <p></p> <p>断線・芯線の露出など、電源コードが傷んだら、お買上げ販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p> <p> プラグをコンセントから抜く</p> <p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>

⚠️ 注意

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。

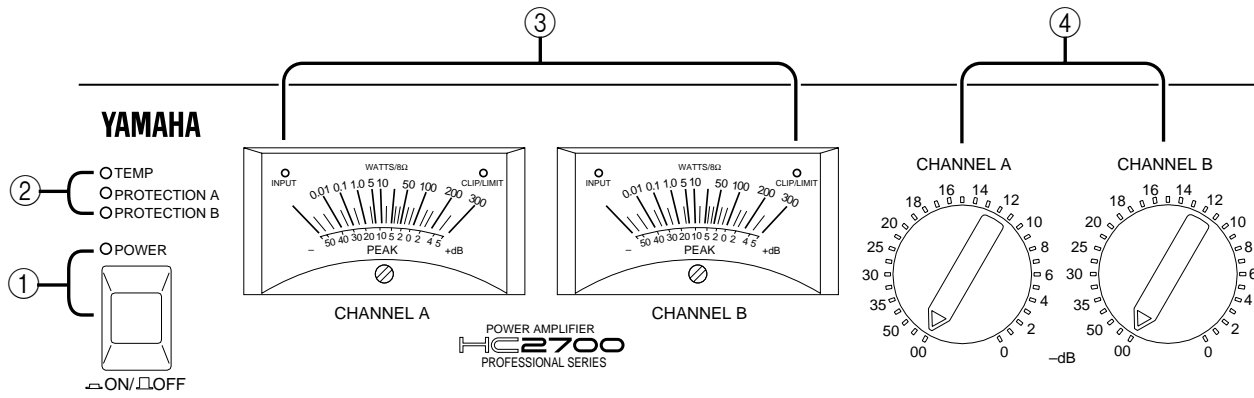
設置されるとき	ご使用になるとき
<p> 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因になります。</p> <p>窓を締め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。</p> <p>湿気やほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。必ずプラグを持ってください。コードを引っ張ると、電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となることがあります。</p>	<p> オーディオ機器・スピーカーなどの機器を接続する場合は、接続するすべての機器の電源を切ってください。</p> <p>それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のコードを使用して接続してください。</p> <p>電源を入れる前に音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p> この機器をスピーカー駆動以外の用途には用いないでください。</p> <p> 旅行などで、長期間この機器をご使用にならないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントからぬいてください。火災の原因となることがあります。</p> <p><small>プラグをコンセントから抜く</small></p>
<p> この機器は重いので、持ち運びは必ず2人以上でおこなってください。</p>	<p>お手入れについて</p> <p> お手入れの際は、安全のため、電源プラグをコンセントからぬいてください。感電の原因となることがあります。</p>
<p> 機器を移動する場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p><small>プラグをコンセントから抜く</small></p>	<p> 定期的な機器内部の掃除が必要です。長いあいだ掃除をせずに、機器の内部にほこりがたまると、火災や故障の原因となることがあるからです。</p> <p>掃除および費用については、お買上げ販売店にご相談ください。</p> <p>掃除の間隔は1年に一度くらい、時期は湿気が多くなる梅雨の前が、もっとも効果的です。</p>

! 使用上のご注意 正しくお使いいただくため

お手入れについて	コネクターの極性
<p>スイッチ・ボリューム・エンコーダー・接続端子などの部品は、磨耗部品といわれ、使用とともに性能が劣化します。劣化の進行度合は、使用環境などによって大きく異なりますが、劣化そのものを避けることはできません。劣化した磨耗部品の交換は、お買上げ販売店へご相談ください。</p>	<p>XLRタイプ</p> <p> Pin 1: グランド Pin 2: ホット (+) Pin 3: コールド (-)</p> <p>1/4"フォンコネクター</p> <p> リング スリーブ チップ チップ: ホット (+) リング: コールド (-) スリーブ: グランド</p>

各部の名称と機能

フロントパネル



POWERスイッチ/インジケータ

電源スイッチです。電源が入るとインジケータが点灯します。

プロテクトインジケータ

プロテクションシステムの状態を示すインジケータです。

どれかが点灯したときは、異常な状態ですから、10ページの“故障かな?と思ったら”を参照ください。

TEMPインジケータ：ヒートシンクの温度が高くなったことを点滅して知らせます。

PROTECTION A, Bインジケータ：チャンネルA、またはBにプロテクション（保護）回路が働いていることを知らせます。

点灯中はアンプが作動せず、スピーカーから音は出ません。また、電源を入れてすぐの約3秒間も保護回路が働いて、インジケータが点灯しますが、これを過ぎると自動的に正常運転になります。

メーター、インジケータ

PEAKレベルメーター：ワット[W]とデシベル[dB]とで出力を表示します。0dBは100W/8Ωです。

INPUTインジケータ：INPUT端子に信号が入力されていることを示します。

CLIP/LIMITインジケータ：信号レベルが高すぎて、クリップし、リミッター回路が作動していることを示します。

レベルコントロール

音量を調節します。

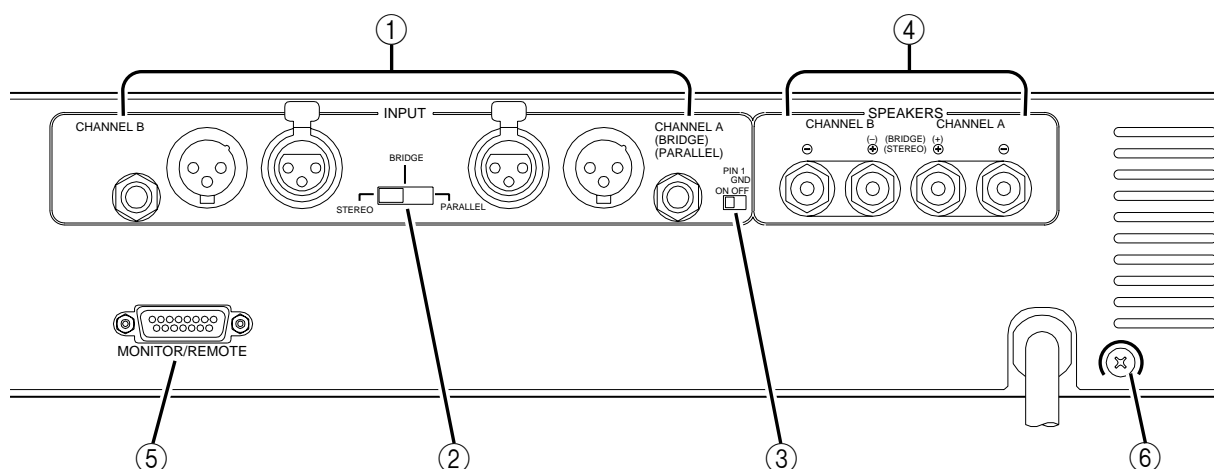
最小音量（-50dB）から最大音量（0dB）まで31のクリックストップポジションがあります。

ノブロック

セッティングの後など、レベルコントロールを固定したいとき、付属のノブロックをはめ込みます。



リアパネル



INPUT端子

XLR-3-31タイプ、XLR-3-32タイプおよびフォンジャック (TRS) の3種類のコネクタがあり、バランス型、アンバランス型のどちらの信号も受けられます。

XLRタイプの極性はピン1:グランド、ピン2:ホット、ピン3:コールド、フォンジャックの極性はT:ホット、R:コールド、S:グランドです。

XLR-3-32タイプのコネクタを使って、入力信号を他のアンプにリンクさせることができます。

STEREO/BRIDGE/PARALLEL モードスイッチ

ステレオ、ブリッジ、パラレルの各モードを切り替えます。

- ・ **ステレオモード**ではチャンネルAとBが別個に作動します (一般的なステレオアンプとなります)。チャンネルAの入力信号がSPEAKERS端子のCHANNEL Aから、チャンネルBの入力信号がCHANNEL Bから出力されます。
- ・ **ブリッジモード**では1入力、1出力のモノラルアンプになり、チャンネルAの入力信号がSPEAKERS端子のBRIDGE (+)、および (-) から出力されます。レベルコントロールはチャンネルAのみ有効です。

<ブリッジモードの操作手順>

- 1) 電源をオフにします。
- 2) リアパネルのモードスイッチをBRIDGEにします。
- 3) チャンネルAの入力端子を信号入力源に接続します。(チャンネルB入力端子は使えません。)
- 4) スピーカーケーブルのプラス側をSPEAKERS端子のCHANNEL A (+) ⊕ に接続し、マイナス側をCHANNEL Bの (-) ⊕ に接続します。⊖ 表示の端子は使用しません。
- 5) レベルコントロールを最小にして、電源を入れ、チャンネルAのレベルコントロールで出力レベルを調整します。

- ・ **パラレルモード**では、チャンネルAの入力信号がSPEAKERS端子のCHANNEL AとBの両方から出力される、1入力2出力のモノラルアンプになります。チャンネルAとBのレベルコントロールは別個に調整できます。

PIN 1 GNDスイッチ

INPUT端子のピン1 (グランド) とシャーシのグランドとを接続します。ONで接続、OFFで切り離されます。複数の機器を使用するシステムでハムノイズのループを消すために使います。

SPEAKERS端子

スピーカーを接続します。ステレオおよびパラレルモードでは赤い端子をスピーカーのプラス側に、黒い端子をマイナス側に接続してください。

ブリッジモードでは、このページ左段下のブリッジモードの操作手順4)に従います。

スピーカー接続方法については5ページを参照ください。

MONITOR/REMOTEコネクタ (HC2700)

外部でのモニター/リモートコントロールをおこなうときに使用します。詳しくは7ページ “MONITOR/REMOTE接続ピン出力” を参照ください。

GND端子

アース用のネジです。ハムや雑音が生じる場合には、この端子により大地アースを施すか、ミキサーかプリアンプ等のシャーシと接続してみてください。

ラックマウント

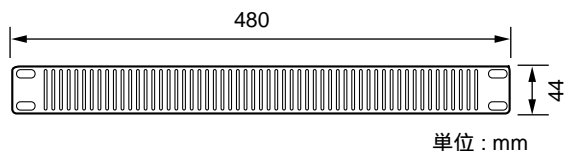
複数のハイパワーアンプを放熱性の悪いラックにマウントすると、各アンプからの熱でラック内の気温が著しく上昇して、アンプ本来の性能を発揮できないことがありますから、マウントにさいしては、放熱のための通気を考慮しなければなりません。

そのようなときは、アンプの上下に吸排気用の通風パネルを取り付けてください。このとき、通風パネルは1Uサイズで、全体の面積の35%以上が開口している必要があります。

さらに、ラックの天板に排気孔があれば、より効果的です。

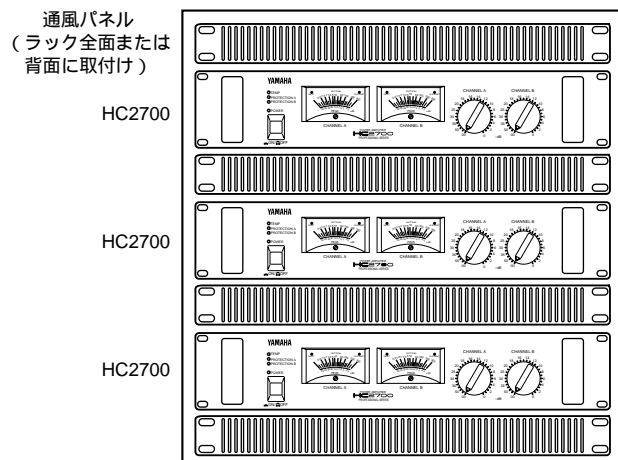
通風パネル

ヤマハでは1Uサイズの通風パネルとしてベンチレーションパネルVP1を別売しています。



3台以下のアンプを、背面の開放されたラックにマウントするとき

下の図のように、アンプの上下に吸排気用の通風パネルを取り付けます。

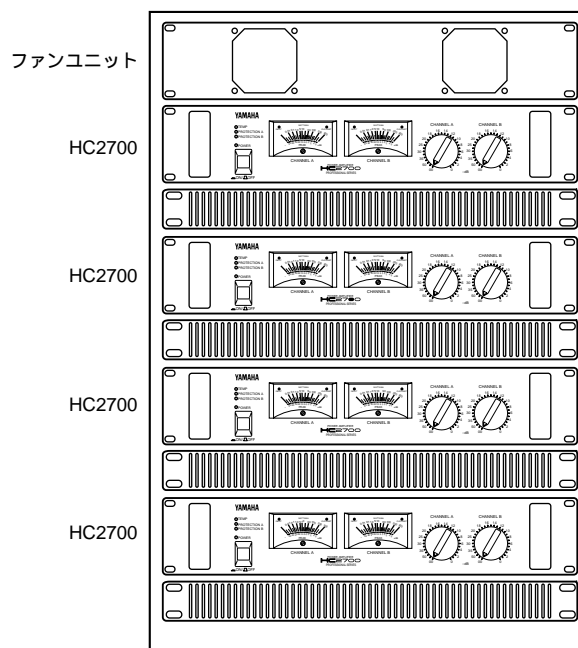


アンプが4台以上のとき、または(3台以下であっても)ラックの背面を開放できないとき

下の図のように、アンプの上下に吸排気用の通風パネルを取り付け、さらに、ラックの最上段または、ラックの天板にファンユニットをアンプ4台につき1個の割合で取り付けます。

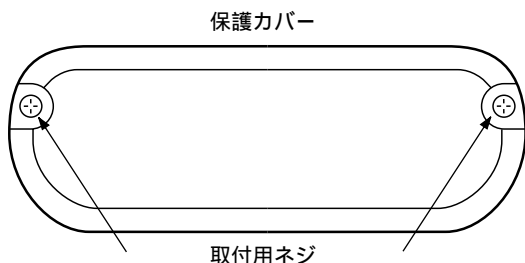
ラックの背面は開放せず、アンプのリアパネルとの間には、10cm以上のすき間をとります。

ファンは無負荷最大風量：0.8m³/min、最大静厚：5mmH₂Oの能力が必要です。

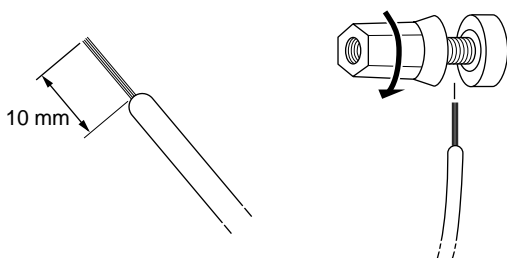


スピーカー配線

1. 電源スイッチをOFFにします。
2. カバー取付用ネジを外し、保護カバーを外します。

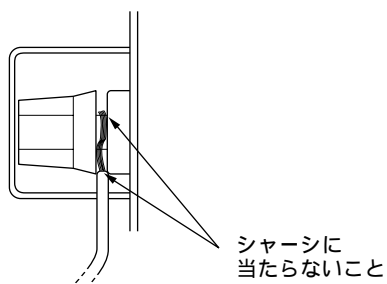


3. スピーカー線材の先端10mmの被覆をはがし、スピーカー端子の穴に通すなどして、締め付けます。



この際、下図のように裸線がシャーシに当たらないよう十分にご注意ください。

端子コネクタがついているスピーカーケーブルは上から挿入します。このため、保護カバー上面が大きく開いています。



4. カバーを元の位置に取り付けます。

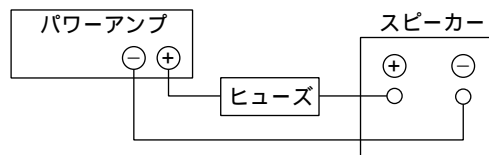
スピーカー出力端子

アンプのAチャンネルスピーカー端子とBチャンネルスピーカー端子をそれぞれスピーカーに接続します。必ず赤い端子をスピーカーの⊕端子に、黒い端子を⊖の端子に接続してください。

各スピーカーケーブルが他のスピーカーケーブルやシャーシ、保護カバーなどとショートしないよう注意し、端子をしっかり締め付けて、ケーブルが動かないようにしてください。また、スピーカーケーブルの接続、取り外しは、必ず電源をオフにしてからおこなってください。

- ・ スピーカーケーブルを長く引き廻す場合は、ダンピングファクターの劣化やケーブル内でのパワーロスを防ぐため、できるだけ太い線材のケーブルをご使用ください。本機のスピーカーターミナルは、芯線径3.8mmの極太ケーブルの使用にも対応しております。
- ・ HCシリーズのパワーアンプでは大出力が得られますので、十分な許容入力を持つスピーカーシステムをご使用ください。

ご使用になるスピーカーシステムの許容入力パワーアンプの定格出力値より小さな場合は、スピーカーとアンプ間に直列にヒューズを接続すると、スピーカーを保護することができます。（下図参照）



下の式を用いて、各スピーカーに応じたヒューズの容量の目安を求めることができます。

$$P_o = I^2 R \rightarrow I = \sqrt{\frac{P_o}{R}}$$

P_o [W] : スピーカーの連続許容入力（ノイズまたはRMS）

R [] : スピーカーの公称インピーダンス

I [A] : 必要なヒューズの容量

例) スピーカーの連続許容入力 : 50 [W]
スピーカーのインピーダンス : 8 []

$$I = \sqrt{\frac{50}{8}} = 2.5$$

上の計算から、必要なヒューズの容量は2.5 [A]となります。

仕様

一般仕様 HC2700, HC1500

		HC2700	HC1500
定格出力 20Hz ~ 20kHz, 0.1%		270W + 270W (8 , Stereo) 350W + 350W (4 , Stereo) 700W (8 , Bridge)	150W + 150W (8 , Stereo) 200W + 200W (4 , Stereo) 400W (8 , Bridge)
周波数特性		10Hz ~ 50kHz +0/ - 1dB	
出力帯域幅 Half Power, 0.1%, 4		10Hz ~ 30kHz	
全高調波ひずみ率 20Hz ~ 20kHz, Half Power 8 /4 : Stereo 8 : Bridge		0.07%	
混変調ひずみ率 Half Power, 8 /4 : Stereo 8 : Bridge		0.05%	
チャンネルセパレーション		65dB (20Hz ~ 20kHz) 80dB (1kHz)	
残留雑音電圧	IHF-A	- 80dBu	
	LPF 12.7kHz - 6dB/oct	- 70dBu	
信号対雑音比	IHF-A	105dB	103dB
	LPF 12.7kHz - 6dB/oct	100dB	98dB
ダンピングファクター		400	
スルーレイト		30V/μs以上 (Stereo) 50V/μs以上 (Bridge)	
入力感度		+ 3.5dBu	+ 1.0dBu
ボルテージゲイン (ATT max.)		32dB	
入力インピーダンス		30k (Balance) , 15k (Unbalance)	
インジケータ		POWER (赤) TEMP (赤、点滅) PROTECTION A, B (赤) INPUT × 2 (緑) CLIP/LIMIT × 2 (赤)	
ピークレベルメータ		- 50dB ~ + 5dB, 0dB = 100W/8	
プロテクション		パワースイッチ オン/オフ ミューティング DCプロテクション ヒートシンク温度 95 PC リミッター RL 1	
リミッター回路		Comp: THD 0.5%/1kHz	
コントロール	フロント	POWERスイッチ: ON/OFF レベルコントロール: 31ポジション	
	リア	モードスイッチ: STEREO/BRIDGE/PARALLEL PIN 1 GND スイッチ: ON/OFF	

コネクター	INPUT	XLR3-31 タイプ × 2 XLR3-32 タイプ × 2 1/4" フォンジャック × 2
	OUTPUT	5ウェイバインディングポスト × 2
	MONITOR/REMOTE	D-Sub 15ピン メス (HC2700のみ)
モニター/リモート (HC2700のみ)	MONITOR	出力レベル (プリ・リレー) × 2 クリップ/リミット オン/オフ 出力 オン/オフ ヒートシンク温度
	REMOTE CONTROL	ミュート オン/オフ × 2 電源 オン/オフ
電源	AC 100V, 50/60Hz	
消費電力	270W	170W
最大外形寸法 (W) × (H) × (D)	480 × 100.5 × 413.2mm	
重量	18kg	17kg
付属品	ノブロック × 2	
別売アクセサリ	ベンチレーションパネル VP1	

0dBu = 0.775Vrms, Half Power = 定格出力の1/2 レベル

ダイナミックパワー (1kHz, 20ms)

HC2700: 700W + 700W (2)

HC1500: 400W + 400W (2)

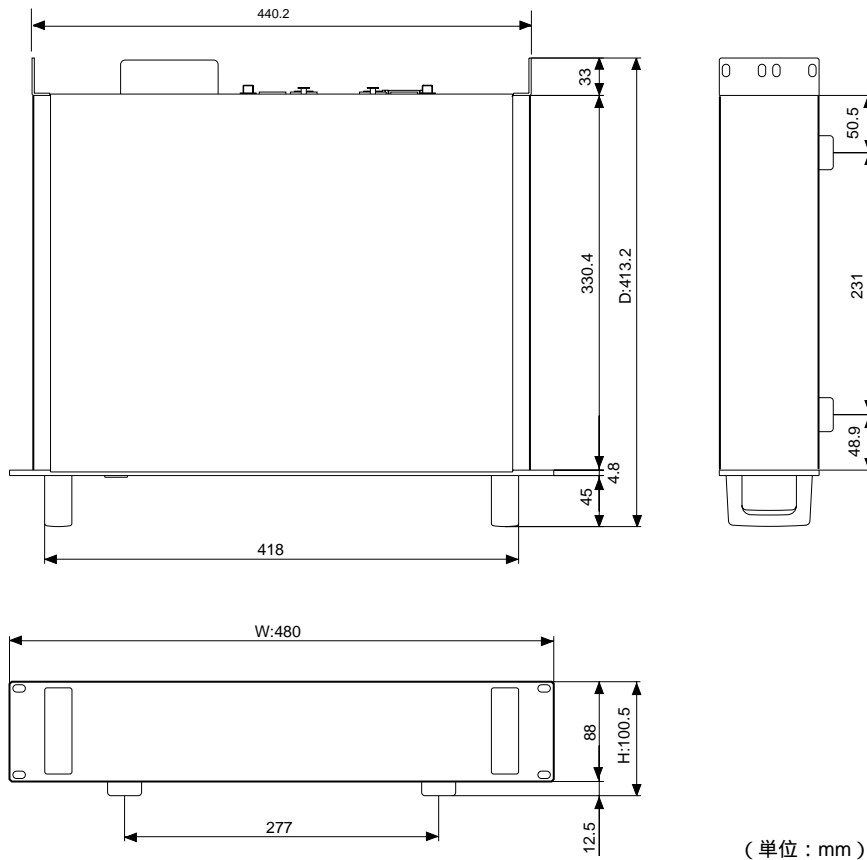
仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

MONITOR/REMOTE接続ピン出力 (HC2700)

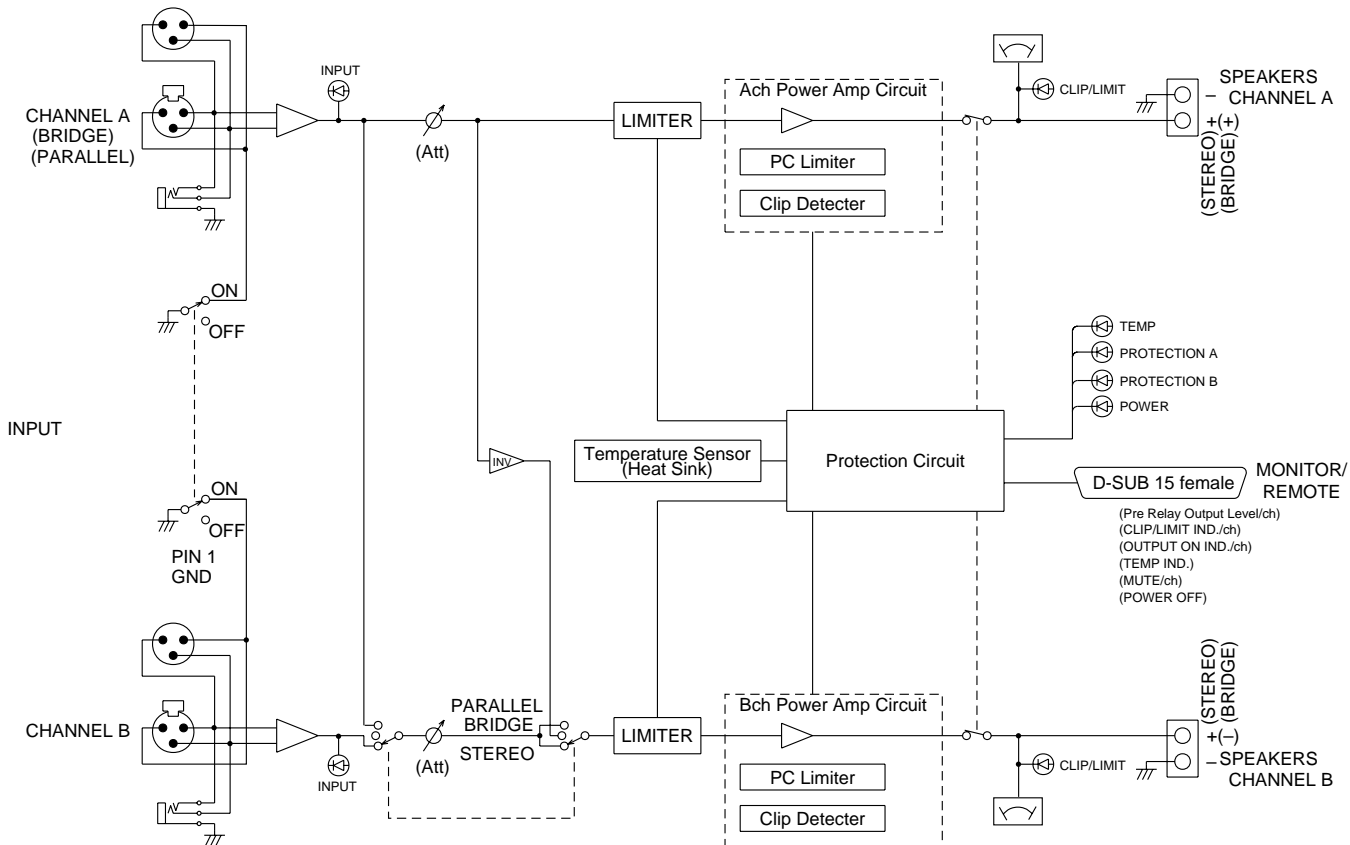
ピン番号	機能	パラメータ	信号	条件	
1	モニター	出力レベル (プリ・リレー)	Ach	+4dB* at 100 w/8 RL=7.5k , Zo=300	
2			Bch		
3		クリップ/リミットON/OFF	Ach	ON: +5V/Zo=270 OFF: 0V/Hi-Zo	THD 0.5%
4			Bch		
5		出力ON/OFF	Ach		出力リレーON
6			Bch		
7		ヒートシンク温度			Temp 85
8	リモートコントロール	ミュートON/OFF	Ach	GND(ピン15)に接続して ミュート	
9			Bch		
10		電源ON/OFF		GND(ピン15)に接続して 電源オフ	
11~14					
15	GND				

* +4dB = 1.23Vrms

寸法図



ブロック図

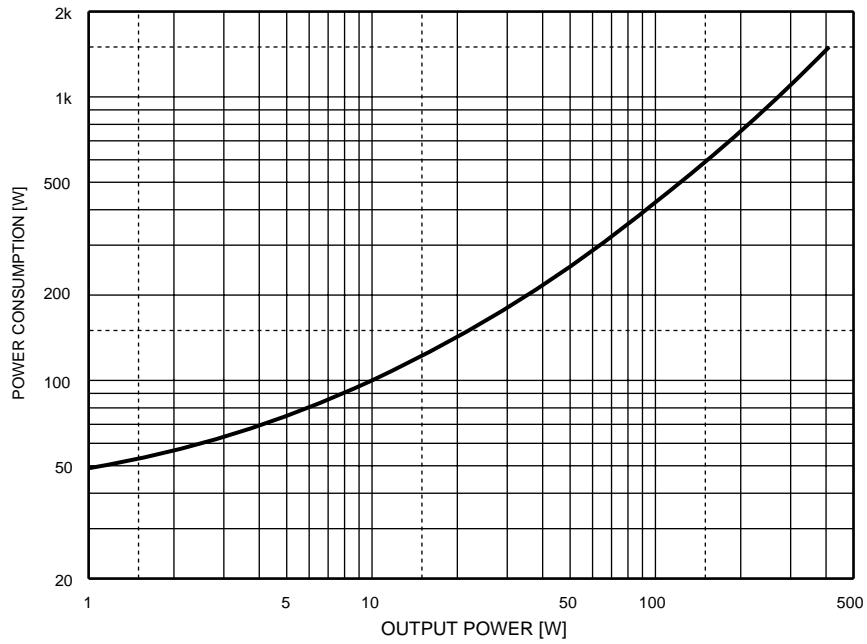


特性図

POWER CONSUMPTION vs OUTPUT POWER

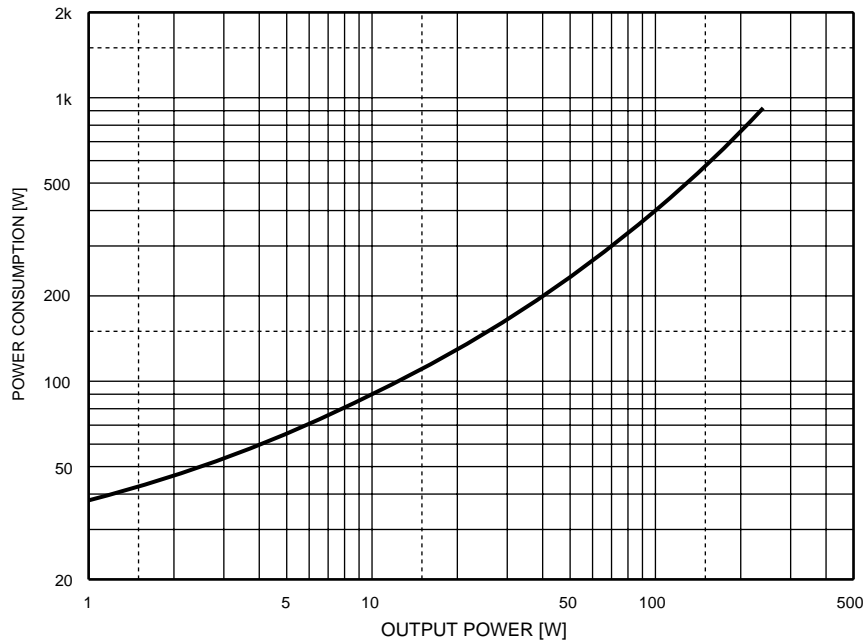
• HC2700

MODE:STEREO
LOAD:4Ω
Freq:1kHz
Both Ch. driven



• HC1500

MODE:STEREO
LOAD:4Ω
Freq:1kHz
Both Ch. driven



故障かな？と思ったら

プロテクトインジケータが点灯するなど、故障かな？と思ったら、次の表を参照して、処置をしてください。

症状	考えられる原因	とるべき処置
CLIP/LIMITインジケータが点灯する	入力信号レベルが高すぎる	レベルコントロールを調整してください
	スピーカー端子、アンプ端子、ケーブル等でのショート	ショートした部分を補修してください
	スピーカーの負荷インピーダンスが低すぎる	ステレオおよびパラレルモードには4Ω以上のスピーカーを、ブリッジモードには8Ω以上のスピーカーを使用してください
TEMPインジケータが点滅する	放熱が不十分	通風スロットを点検してアンプ周りの通風状態を良くしてください
	スピーカーの負荷インピーダンスが低すぎる	ステレオおよびパラレルモードには4Ω以上のスピーカーを、ブリッジモードには8Ω以上のスピーカーを使用してください
INPUTインジケータが点灯するが、PEAKレベルメータが振れない	レベルコントロールの設定が低すぎる	レベルコントロールを調整してください
音が出ず、PROTECTION A（またはB）インジケータが点灯している	電源を入れてから間がない	そのまま約3秒間以上待ってください
	DCに近い超低周波が入力されている	入力信号源を確かめてください
	故障している	販売店にご相談ください
音が出ず、PROTECTION A（またはB）インジケータとTEMPインジケータが点灯している	ヒートシンクが過熱している	通風スロットを点検してアンプ周りの通風状態を良くしてください
音が出ず、PROTECTION A（またはB）インジケータが点灯し、CLIP/LIMITインジケータも点灯している	入力信号レベルが高すぎる	レベルコントロールを調整してください
	スピーカーの負荷インピーダンスが低すぎる	ステレオおよびパラレルモードには4Ω以上のスピーカーを、ブリッジモードには8Ω以上のスピーカーを使用してください

サービスについて

保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめのうえ、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理にさいしては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品にかんするご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問い合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-5085 (電話受付 = 祝祭日を除く月～金 / 11:00～19:00)

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

営業窓口

PA営業部

北海道営業所	☎ 011-512-6106	〒064-0810	札幌市中央区南十条西1-1-50
仙台営業所	☎ 022-222-6214	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10
東京事業所	☎ 03-5488-5480	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
名古屋営業所	☎ 052-232-5744	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28
大阪事業所	☎ 06-6647-8359	〒556-0011	大阪市浪速区難波中1-13-17
九州営業所	☎ 092-412-5556	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
PA営業課	☎ 03-5488-5472	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
PA推進室	☎ 053-460-2455	〒430-8650	浜松市中沢町10-1

ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスステーション	☎ 011-512-6108	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスステーション	☎ 022-236-0249	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F
首都圏サービスセンター	☎ 03-5762-2121	〒143-0006	東京都大田区平和島2-1-1 京阪トラクターミナル14号棟A-5F
浜松サービスステーション	☎ 053-465-6711	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-6877-5262	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスステーション	☎ 087-822-3045	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
広島サービスステーション	☎ 082-874-3787	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14
九州サービスステーション	☎ 092-472-2134	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/CSセンター	☎ 053-465-1158	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階

所在地・電話番号などは変更されることがあります。
2001年5月現在

ヤマハ株式会社

PA営業部PA営業課 ☎ 03-5488-5472
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11